

令和6年度地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

AI などデジタルツールを用いた業務効率化 に必要なAI およびIT リテラシー調査

報告書

2025年2月25日

実施概要

- 専門学校、研究機関等に所属委員に協力依頼（2024年12月末～2025年1月中旬）
- スマート医療／医療DXに先進的に取り組む医療施設に訪問調査

（目的）医療現場の業務DX化に向けてAIを活用する上で、「どのようなAIソリューション」に対して「どのようなスキルを必要としているか」、業務効率を高めるAI利活用法の類型化に向けて、当該技術を先進的に利活用している事例、もしくはIT・AIソリューションを提供する企業について、情報を収集すること

①アンケート調査の構成

「質問A.業務DXに先進的に取り組む医療施設について」 × 1シート

- 1. 医療施設名、2. ソリューション名、3. 参考URL、4. 注目している理由、
5. 関係者紹介の可否

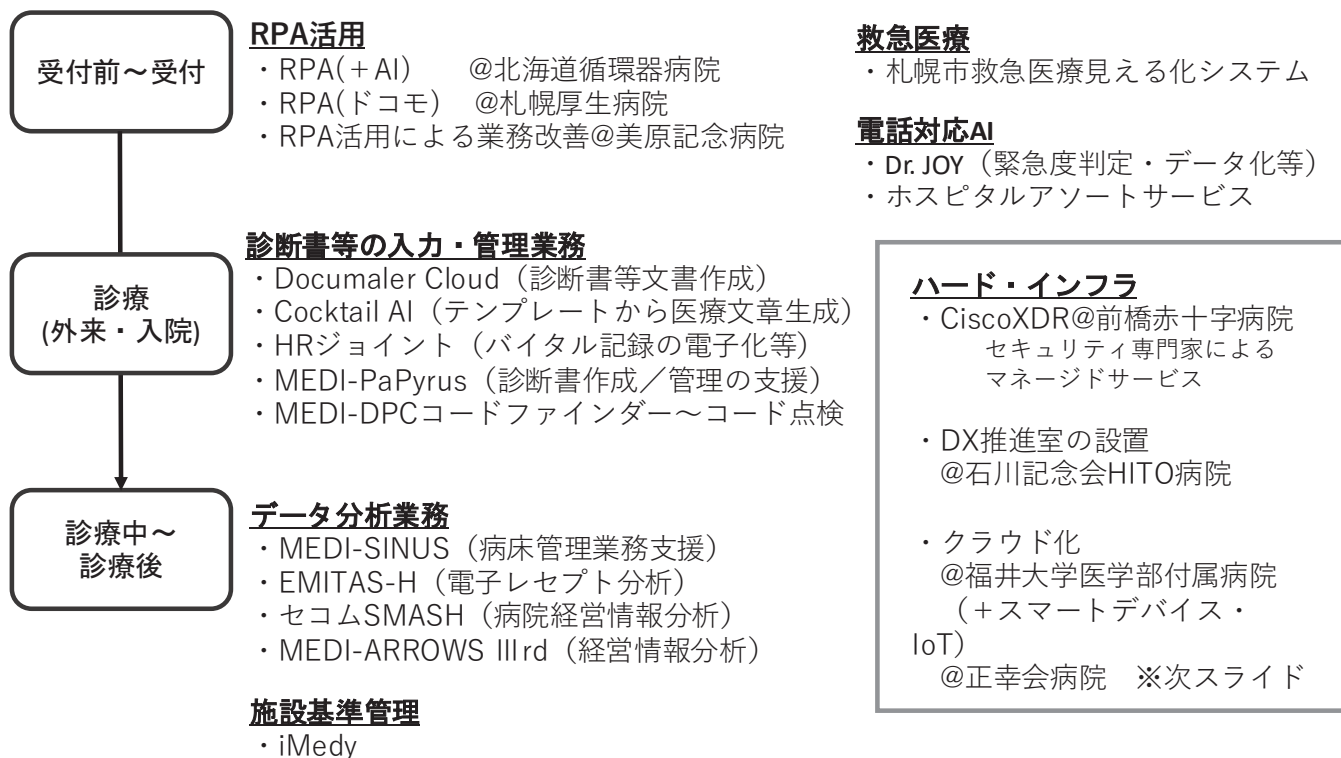
「質問B. IT・AIソリューションについて」 × 1シート

- 1. ソリューション名、2. 提供企業・団体名、3. 参考URL、4. 注目している理由

②先進的な医療施設への訪問調査

①アンケート結果

・ 詳細は参考資料



②訪問ヒアリング調査

正幸会病院 (大阪府門真市にある56床の小規模病院) 2/13訪問

- ・ スマート医療の実現による医療DXの推進
 - 1) 患者の医療体験の向上/オンライン診療と、
 - 2) 病院内の業務改善・効率化/クラウド化とAI診療
- ・ クラウドネイティブ型のサーバ環境と電子カルテ Henry
→クラウド化による利便性を確保し、ブラウザ上で情報環境の再現可能
- ・ 生体認証を含む多要素によるログイン管理
→クラウドサーバにおけるセキュリティ・個人情報管理の担保
- ・ 丁寧な説明・計画性と、導入に向けた環境整備、礼儀正しさ、そして企業等との共同開発体制に基づくトップダウン型の推進
(病院業務をDX化するクラウドシステム”mawari”、iC-One (同意取得のデジタル化) 等)

補足資料

(アンケート調査のまとめ)

先進的事例①業務DXに先進的に取り組む医療施設について

注目している「業務DXに取り組む医療施設」があれば、教えてください。

1	医療施設名	社会医療法人 北海道循環器病院
2	ソリューション名	RPA (+AI)
3	参考URL	
4	概要 #インフラ #RPA	<ul style="list-style-type: none"> ・ RPA+AIでのスキルに寄らない業務効率化 ・ サポートデスク (システムエンジニア) の存在
	注目している理由・ポイント	<p>医療現場で個々が医療DXにおけるスキルの習得は中々難しいのが現状である。そのため、既にITプログラム技術介入で対応できている業務以外の領域において、スキルを持たない職員でも比較的容易に導入可能なRPAを取り入れることで、医療事務のレセプト算定漏れや事務的業務の自動化が可能となり、各セクションの生産性向上 (業務効率化) が期待できる。また、RPAとAIを融合させることで電子カルテの医療情報を元にRPAを最大限活かすことができ、より医療の質向上、医業収益の向上に寄与できると考えられる。</p>

1	医療施設名	JA北海道厚生連 札幌厚生病院
2	ソリューション名	①RPA(NTTドコモ)、②動画編集 (PIP - Maker) 、 ③HRジョイント (TERUMO)
3	参考URL	
4	概要 #働き方改革 #RPA	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革としての作業の効率化、標準化、質の向上 ・ 複数ツールの導入 (RPA、動画編集ツール、バイタル測定)
	注目している理由・ポイント	<p>①定型的な事務作業をシナリオを作ってソフトウェアロボットで自動化→事務作業の効率化 ②入院案内を作成→説明内容の標準化 ③入院患者のバイタルを測定し、自動的に電子カルテに記録される仕組み→看護師の記録にかかる時間短縮、誤入力防止できる これらは、全て働き方改革の一環で、作業の効率化・標準化・質の向上がメリットです。経営的に見ても人手不足の解消、ムリ・ムダの排除が出来ますし、安全面で質の向上が挙げられます。</p>

1	医療施設名	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院
2	ソリューション名	Dr.JOY
3	参考URL	https://service.drjoy.jp
4	概要 #AI電話	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話対応でのAI活用 ・ 緊急度判定、データ化による共有化
	注目している理由・ポイント	<p>いわゆるAI電話。日常的に電話対応を行っているが、その中でも緊急性の高い電話と緊急性 (優先度) の低い電話は存在する。このシステムを導入することで、医療機関側に電話の内容の優先度で対応する順番を選択できることにまず注目しました。それに伴い、電話の内容を文字で共有化でき電話内容で一人で悩むことが少なくなり全員で内容を共有・対応することが可能。結果、患者への医療サービスの質向上に繋がる。</p>

1	医療施設名	社会医療法人石川記念会HITO病院
2	ソリューション名	
3	参考URL	http://hitomedical.co-site.jp/tour-of-a-facility/
4	概要 #インフラ #推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・DX推進室による業務効率化 ・段階の設定(iphone導入、業務用SNS、院外活用、AI・ロボット)
	注目している理由・ポイント	HITO病院には「DX推進室」があり、業務の効率化を進めるために積極的にデジタル技術を取り入れている。職員がスマホで情報共有したり、外国人スタッフへの指示を明確にするため生成AIの翻訳機能を使用したり、試験的にスマートグラスを導入している。NHKや日経メディカルでも紹介されている。

1	医療施設名	前橋赤十字病院
2	ソリューション名	CiscoXDR
3	参考URL	https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2410/24/news004.html
4	概要 #セキュリティ #XDR #推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティの重視 ・情報システム課による推進（診療情報管理士業務指針の8割）
	注目している理由・ポイント	前橋赤十字病院の情報システム課では、診療情報管理士業務指針の8割が情報システム課の業務とお聞きしました。院内でのiphone導入や各部署の業務改善のために情報システム課が取り組みなど、現場に即した教育内容となるようご指導いただいております。教育活動に反映させていきたいと考えています。

1	医療施設名	美原記念病院
2	ソリューション名	
3	参考URL	
4	概要 #推進体制 #RPA	<ul style="list-style-type: none"> ・データ管理課・医療情報課による推進 ・RPAを活用した診療データによる業務改善
	注目している理由・ポイント	RPAを活用した医療の質を向上させるために必要な診療データの効率的活用による業務改善をデータ管理課・医療情報課が担っているとお聞きしました。

1	医療施設名	福井大学医学部附属病院
2	ソリューション名	ICTの活用
3	参考URL	https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/iisedai/dai2/siryou2.pdf
4	概要 #インフラ #クラウド #IoT	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報部（山下芳範准教授（医療情報学））による推進 ・クラウド化などのインフラ整備、ICT・データのシステム運用
	注目している理由・ポイント	上記資料は少し古いかもしれませんが、医療情報部の山下先生は、以前よりクラウド化やIoTの導入その他常に先進的なシステム化を推進されており、部門及び全体の効率化を実現されていると思います。

先進的事例② IT・AIソリューションについて

医療施設で活用する上で注目している製品・サービスがあれば、教えてください。

A	ソリューション名	Dr.JOY
B	提供企業・団体名	Dr.JOY株式会社
C	参考URL	https://service.drjoy.jp
D	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・電話対応AI ・情報のデジタル化
	注目している理由・ポイント	<p>新病院移転時にAI電話の導入を検討していることもあるが、実際に活用している医療機関を見学させていただきました。</p> <p>単純に予約の変更やキャンセルといった業務を行うだけでなく、もっと汎用性が高い使用が可能と判断しており使用する事務員の知識の向上・意識の共有化・サービスの向上に繋がるものになる。</p>

A	ソリューション名	札幌市救急医療『見える化』システム
B	提供企業・団体名	TXP Medical
C	参考URL	https://txpmedical.jp
D	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療での情報共有／コミュニケーションアプリ
	注目している理由・ポイント	<p>2024年2月より既に札幌市消防局で導入されているシステムになります。専用のアプリに救急隊より患者情報が入力され、登録している救急受入医療機関へ情報を一斉に送信。受入可能な医療機関がそれに返信する仕組みです。受入時に課題となる情報の共有や情報を共有することで連携がより密になり、救急隊到着時に迅速且つ適切な医療提供が可能となります。</p>

A	ソリューション名	ホスピタルアソートサービス
B	提供企業・団体名	株式会社ファインデックス（英文名：FINDEX Inc.）
C	参考URL	https://findex.co.jp/
D	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットIVR
	注目している理由・ポイント	<p>患者からの電話にロボットIVR（自動音声応答システム）が対応し、電子カルテと連携することで新規予約の受付等を行いフロント業務の効率化に繋がる。</p>

A	ソリューション名	診断書等文書作成サービス DocuMaker Cloud
B	提供企業・団体名	株式会社ファインデックス（英文名：FINDEX Inc.）
C	参考URL	https://findex.co.jp/
D	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・診断書等のデジタル化 ・電子カルテ、レセプトソフトとの連携
	注目している理由・ポイント	

D	注目している理由・ポイント	診断書等の医療文書を大規模なシステム導入や運用変更の手間なく手軽にデジタル化出来るところ。既に利用している電子カルテやレセプトソフトと連携可能なところが汎用性が高い。
---	---------------	---

A	ソリューション名	CocktailAI (カクテルイーアイ)
B	提供企業・団体名	Fitting Cloud
C	参考URL	https://fittingcloud.co.jp/
	概要	・生成AIを活用した医療文書作成
D	注目している理由・ポイント	2024年11月生成AIを活用した医療文書向け文書生成ソリューション「CocktailAI」がGoogle Cloud主催「第2回生成AIInnovation Awards」で優秀賞を受賞した。

A	ソリューション名	medi-**
B	提供企業・団体名	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
C	参考URL	https://www.nissay-it.co.jp/solution/medicalinst/
	概要	・データ分析（電子レセプト、病院経営などの分析） ・情報管理システム（診断書作成・管理、病床管理）
D	注目している理由・ポイント	病床管理業務支援システム MEDI-SINUSを販売していた経験があり、AIではないが非常に有用と感じたため。

A	ソリューション名	病院経営情報分析システム『セコムSMASH』
B	提供企業・団体名	セコム医療システム株式会社
C	参考URL	https://medical.secom.co.jp/it/smash/
	概要	・経営情報分析
D	注目している理由・ポイント	病院経営情報分析システム『セコムSMASH』を販売していた経験があり、AIではないが非常に有用と感じたため。